



## 大阪城サマーフェスティバル2012

### 「西の丸ステージウィーク」

各主催団体が西の丸庭園の特設ステージを共有

**大**阪のシンボル「大阪城」の知名度やロケーションを活用し、各種団体が主催するイベントを集中させることで観光集客や文化による大阪の活性化につなげる「大阪城サマーフェスティバル」。昨年は7月から9月にかけて、“サマフェス”の名のもと、音楽や伝統芸能、グルメなど34のイベントが展開された。実行委員会事務局を務める関西・大阪21世紀協会も、「西の丸ステージウィーク」を中心にコンサートなどを開催。大阪の多彩な文化活動を発信した。

西の丸ステージウィークは、大阪城天守閣を背景にした西の丸庭園特設ステージを複数の主催者が共有することで、効率的なイベント運営を行う社会実験。大阪城をブランドとして磨くとともに、西の丸庭園から大阪の芸術文化の魅力を広く発信し、文化活動をする人々の育成や発掘、観光コンテンツとしての成長をめざしている。2009年にサマフェスのコア・イベントとして始まって以来、協会はその運

営事務局を担当。昨年は、協会が事業方針に掲げる「文化力の向上と人材育成」に即し、新進アーティストのコンサート「夢の丸芸能座 ユメステ(7月28日)」や、高校吹奏楽部の競演「真夏の夜のプラス～吹奏楽の夕べ at 大阪城(8月1日)」を主催。李 広宏さんによる「日本・中国・世界の心の歌コンサート(7月27日)」や、アノインテッド・マス・クワイヤーによる「大阪城ゴスペルコンサート(7月29日)」、有名アニメソングアーティストによる「nonstop アニソントレイン祭」なども行われ、西の丸庭園は連日熱い歓声で沸いた。

また、協会は初の試みとして「西の丸ステージウィーク」のオープニングを飾る新企画「オープニング・ガラ(7月26日)」を大手門広場にて開催した。吹奏楽やパントマイム、オペラ、ダンス、和太鼓演奏などが、壮麗な石垣や大手門前を背景に次々展開され、西の丸ステージウィークの期待感を盛り上げた。

### 大阪城大手門広場でドラマチックなパフォーマンス



#### オープニング・ガラ

(2012年7月26日／主催：関西・大阪21世紀協会)

テーマは「鎮魂そして安心・希望」。東日本大震災被災者への祈りと大阪城の御霊への鎮魂の意を込めるとともに、文化による安心と希望を願って数々のドラマ

チックなパフォーマンスが展開された。ラストのクライマックスでは、坂本九のヒット曲「見上げてごらん夜の星を」を、出演者と観客が一緒になって歌いあげた。



打打打団 天鼓(和太鼓グループ)



いいむろなおぎマイムカンパニー



四條畷学園高等学校吹奏楽部



内藤里美さん(ソプラノ・右)と村上麻理絵さん(ダンス・左)



ダンスカンパニー ディニオス



大阪府警察音楽隊



松本薫平さん(テノール)



“Ti-chaer's(ちっちゃーず)”  
(キッズ・ダンス・チーム)



まさちゃんぐ  
(シンガー・ソングライター)



## 大阪城西の丸庭園 特設ステージ

### 李 広宏「日本・中国・世界の心の歌コンサート」

(2012年7月27日／主催：李広宏音楽事務所)

音楽を通じて世界の平和を訴え、世界の文化の架け橋になりたいと活動している李広宏さん。今回は「夏の思い出」などの日本の抒情歌や、「蘇州夜曲」など往年のヒット曲をはじめ、「トロイカ」、「枯葉」など世界各国の心の歌を披露した。歌の合間には、東日本大震災の被災地の方との歌を通じた交流のエピソードも紹介。来場者は芝生の上でくつろぎながら、心和む夏の夜のひとときを楽しんだ。



李広宏さん

### 夢の丸芸能座「ユメステ」

(2012年7月28日／主催：関西・大阪21世紀協会)

音楽やダンスなどの新進アーティストに活躍の場を提供し、さらなる飛躍のきっかけにしてほしいという思いを込めた新企画。アコースティックやロック、フラダンスなど、20組によるエネルギッシュなパフォーマンスが繰り広げられた。



「きみのママより」でメジャーデビューした初田悦子さんのステージ

### 大阪城ゴスペルコンサート

(2012年7月29日／主催：アノインテッド・マス・クワイヤー)

全国に総勢1,000名のメンバーを擁し、各地での自主コンサートをはじめライブ活動やテレビ出演なども行っているゴスペルグループ「アノインテッド・マス・クワイヤー」。昨年は2010年に次ぐ2回目の参加で、大阪メンバーにワークショップメンバーが加わり、総勢500人のパワフルな歌声が披露された。



アノインテッド・マス・クワイヤー

### 吹奏楽の夕べ at 大阪城

(2012年8月1日／主催：関西・大阪21世紀協会)

かつての「御堂筋パレード」に代り、高校吹奏楽部に発表の場を提供する新企画。関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫さんを特別ゲストに迎え、追手門学院大手門高校、大阪市立扇町総合高校、明浄学院高校、早稲田摂陵高校の吹奏楽部が出演。藤岡さん指揮による「ラデツキー行進曲」の聴き比べや、出演者全員による「翼をください」など、迫力ある演奏で大勢の来場者を魅了した。



藤岡幸夫さん指揮による演奏風景

### nonstopアニソントレイン祭2012 in大阪

(2012年8月3～5日／主催：あにとれ製作実行委員会)

影山ヒロノブさんをはじめ、実力シンガー 20数人が3日間にわたりアニメソングライブを展開。新作アニメプロモーションやラジオ公開録音、コスプレカフェ、B級グルメイベントなども開催された。



ステージ風景



## 小松原智史さんに大賞

### アートストリーム2012

2012年10月26～28日（大丸心齋橋店北館イベントホール）

**大**阪・関西を中心に活動する新進アーティストに、作品発表の場と支援の機会を提供する「アートストリーム2012」（主催：アートストリーム実行委員会〔関西・大阪21世紀協会、大阪芸術大学、大阪府、大阪市〕）。昨年は12回目を迎え、一般公募で選ばれた61組が、大丸心齋橋店にて絵画や彫刻などさまざまなアート作品を披露した。来場者は3日間で約3,000人。アーティストは作品に込めた思いや制作方法、これまでの活動などをアピールし、来場者とのコミュニケーションも弾んだ。当日は作品の販売も行われた。

最終日には、絹谷幸二氏（画家・大阪芸術大学教授）、蓑豊氏（兵庫県立美術館館長）、中崎宣弘氏（空間構想デザイナー）、田崎友紀子氏（メディアアートプロデューサー・株式会社スーパーステーション取締役副社長）4名の審査員による「アートストリーム2012アワード 大賞・奨励賞」の選考・発表が行われ、小松原智史さん（絵画）が大賞（副賞賞金20万円）を受賞。絹谷氏は、小松原さんのインパクトの強いシュールな作風について、「（他の出展作品のなかで）非常に際立っていた」と称えた。さらに、「私が学生

の頃は、自分の作品を発表し、販売し、賞までもらえるチャンスは存在しなかった。アートストリームは若いアーティストを励ます素晴らしい企画。今回の出展作品はどれを選べば良いか迷うくらい力量が拮抗しており、審査員の方が試されているようだった」と述べ、アートストリームの意義やレベルの高さを評価した。

また、「アートストリーム2012アワード 企業・ギャラリー賞」の一つ関西・大阪21世紀協会賞が藤原郁子さん（日本画）に贈られた。板パネルに高知和紙を巻き込み、にかわで溶いた岩絵具で蓮池などを表現した作品は、絵具から絵筆まですべて天然素材を用いて制作されたもの。「子どもの頃に土や木、水で遊んだ思い出は心の隅に残っています。そうした日本人の心にある原風景を思い出してもらえれば」という藤原さん。来場者からも、「見ていて心が落ち着く」と好評だった。

関西・大阪21世紀協会賞はデザインオフィスを副賞としており、藤原さんの作品は、関西・大阪21世紀協会の「設立30年記念誌」の表紙（文化の女神）などに起用された。



小松原智史さんと受賞作品

奈良県生まれ  
2011年大阪芸術大学美術学科卒業、  
同大学院芸術研究科在籍中  
2013年第16回岡本太郎現代芸術賞  
(TARO賞)特別賞受賞

会場風景



藤原郁子さんと作品  
京都日本画家協会会員、西宮芸術  
文化協会委員、西宮日本画協会  
会員、創画会研究会員、悠久画塾主宰。  
西宮市在住。



文化の女神(53cm×45cm)



## バレエと文楽太夫の共演

### アート・アSEMBリー 2012

2012年11月16日 (クラブ関西)

**音** 楽や演劇、伝統芸能など、大阪・関西を拠点とする優れたアーティストの活動を関西・大阪21世紀協会の賛助会員などに紹介し、アーティスト支援の輪を広げる「アート・アSEMBリー」(主催:関西・大阪21世紀協会)。2010年より毎年11月に開催され、今年度は「文楽meetsバレエ」と銘打ち、地主薫バレエ団(2008年度大阪文化祭賞グランプリ、2012年度同奨励賞)と、文楽浄瑠璃の豊竹咲甫大夫さん(2009年度大阪文化祭奨励賞)、三味線の鶴澤清志郎さん(2005年国立劇場文楽奨励賞)による特別上演が行われた。

まずは地主薫バレエ団が、グランド・バレエの代表作「くるみ割り人形」第2幕のクライマックスを上演。美しい王子と少女クララがおとぎの国で楽しいひとときを過ごすシーンでは、奥村康祐さん(王子役)をはじめ19名の団員が評判通りのハイレベルな踊りを披露した。

続いて豊竹咲甫大夫さんと鶴澤清志郎さんが、「ひらかな盛衰記 逆櫓(さかろ)の段」を披露。木曾義仲が源義経に討たれた後、忠臣・樋口次郎が主君の仇を討つべく義経

の船の船頭となってその機を伺うが、正体が見破られてしまう無念さを情感豊かに語り聴かせた。

最後は、この日のために作られた文楽とバレエのコラボレーション作品「大蛇退治(おろちたいじ・近松門左衛門作、地主薫演出・振付)が披露された。八岐大蛇(やまたのおろち)の生け贄になった稲田姫を救うべく、奥村康祐さん演じる素戔嗚尊(すさのおのみこと)が大蛇と激しく立ち回る圧巻のシーンでは、ダンサーたちと浄瑠璃語りが見事に一体化し、約100人の来場者に新鮮な感動を与えた。

上演後、奥村康祐さんと豊竹咲甫大夫さんは、「リハーサルに十分な時間をとれなかったが、やってみればぴったりと合わせていただけた。さすが!!」と奇しくも二人の感想は同じ。演出・振付を行った地主薫さんは今回のコラボレーションについて、「ジャンルは違っても、咲甫大夫さんや清志郎さんという素晴らしいプロフェッショナルと共演できてこそ可能なこと。私たちにとっては良い経験になったし、なにより文楽ファンにバレエの魅力を知ってもらうきっかけになればうれしい」と語った。



八岐大蛇と格闘する素戔嗚尊(奥村康祐さん:中央)



豊竹咲甫大夫さん(左)と鶴澤清志郎さん(右)



バレエと文楽太夫の共演シーン



「くるみ割り人形(第2幕より)」



## 日本舞踊・藤間良太郎さんら受賞 平成24年度 大阪文化祭賞 贈呈式 2012年9月14日（綿業会館）

**大**阪の芸術文化活動の奨励と普及を目的に、1963年にはじまり49回目を迎えた「大阪文化祭（大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会主催）」。「平成24年度は、昨年5～6月の2か月間にわたり大阪府内で行なわれた54件の参加公演の中から、優れた成果を上げた個人・団体に大阪文化祭賞と同奨励賞が贈られた。

大阪文化祭賞運営委員会会長をつとめる当協会の堀井良股理事長は、賞贈呈式で「今回はベテランの活躍が目立った。大阪における文化・芸術を取り巻く環境は依然厳しいが、こうした先輩諸氏に続いて



藤間良太郎さん（賞贈呈式にて）

若い人たちの受賞者が出ることを期待し、今後も支援していきたい」と挨拶。大阪文化祭賞を受賞した藤間良太郎さん（日本舞踊）は、「早70歳を迎えたが、関西・大阪の舞踊界が盛り上がるよう、終わりのない道を歩んでいきたい」と今後の意気込みを語り、長唄「老松」を披露した。各賞の受賞者は右の通り（敬称略）。



### ◆大阪文化祭賞

藤間 良太郎（日本舞踊）

「藤間良太郎の会」における『娘道成寺』の成果  
関西オーケストラプロジェクト実行委員会  
「関西オーケストラプロジェクト2012」における  
『4人の作曲家による新作初演』の成果

### ◆大阪文化祭賞奨励賞

菊央 雄司（地歌箏曲）

「吉村輝尾・菊央雄司ジョイントリサイタル」における  
『浪花十二月』の成果

劇団大阪

劇団大阪第71回本公演「イノセント・ピープル」の成果

地主薫バレエ団 地主 薫、奥村 康祐

2012年 地主薫バレエ団公演「コッペリア」における

演出及び演技の成果

（大阪文化祭賞グランプリは該当者なし）



## 文化事業の専門家に聞く 交流サロン 21café

2012年6～11月（大阪キャッスルホテル 他）

**さ**まざまな分野の専門家を招いてお話を伺うとともに、新たな文化創造に向けてアイデアやコラボレーションのきっかけづくりをめざす交流サロン「21café」。平成24年度はこれまでに4回開催され、大阪を拠点に文化事業を展開する方々の興味深いお話を聴くことができた。

第1回（6月28日）は、能楽師和泉流狂言方の小笠原匡氏を招き、「東洋と西洋、仮面劇の形態を探る!」と題して開催。狂言用の面とイタリア仮面劇「コンメディア・デッラルテ」で用いられる面の特徴が実演を交えて解説された。

第2回（7月14日）は、「大阪に縄文魂を!」と題し、元大阪大学教授 上田篤氏の講演と、清風明育社理事長 平岡龍人氏や一心寺長老 高口恭行氏らによるシンポジウムをNPO法人 国際縄文学協会と共催。日本が世界の大国に伍してやっていけるのは縄文時代以来の歴史があるからだとし、大阪・上町台地で生まれた縄文人の生き方に学び、未来の大阪のあるべき姿について考えた。

第3回（11月6日）は、滋慶学園グループ総長の浮舟邦彦氏と同学園COMグループ総合プロデューサーの喜多静



小笠原 匡氏



浮舟邦彦氏



喜多静一郎氏



前田順一氏

一郎氏を招き、「大阪におけるミュージック・ダンススクールの可能性」をテーマにお話を伺った。同学園は、音楽やダンスなどのエンターテインメント業界の即戦力となる人材教育を行っており、今回は、その教育プログラムや実践的カリキュラムなどが実際の映像を用いて紹介された。

第4回（11月27日）は、イベントなどの照明や音響、映像による空間演出を行う株式会社ハートス代表取締役の前田順一氏を招いて開催。同社は市民創作による「函館野外劇」の第1回公演（1988年）から25年間にわたって照明演出を担当している。今回は、国の特別史跡「五稜郭跡」を舞台に約400人の市民が出演する国内最大規模の「函館野外劇」の歴史や課題に加え、大阪における野外演劇の実現に向けた提案などが紹介された。各回とも30～40名の参加者があり、講演後の交流会では講師と参加者の活発な意見交換が行われた。



## レスリング・吉田沙保里さんに「大賞」贈呈

### 平成24年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2013年1月22日（リーガロイヤルホテル大阪）

**文**化庁と関西元気文化圏推進協議会（会長：森詳介関西地域振興財団会長、副会長：堀井良殿関西・大阪21世紀協合理事長）は、今年1月22日、平成24年度の文化庁芸術祭賞（関西地区）と関西元気文化圏賞の合同贈呈式および祝賀会を開催した。

関西元気文化圏賞は、文化を通じて関西から日本を明るく元気にした人や団体に対して、感謝と一層の活躍を期待して贈られるもの。今年度の大賞は、ロンドン五輪女子レスリング55キロ級で金メダルを獲得し、五輪3連覇を含む世界大会13連覇を達成した吉田沙保里選手（三重県出身）に贈られた。吉田選手はビデオレターを寄せ、「今年は世界大会14連覇をめざして頑張りたい」と抱負を語り、同選手が所属する総合警備保障株式会社（ALSOK）レスリング部の大橋正教監督が代理で受賞した。

また、今回は関西元気文化圏構想（2003年）の10周年を記念して、「いま、問い直す“文化の力”～関西ができること」と題した記念講演とトークセッションも開催された。記念講演の講師は、哲学者・大谷大学教授の鷺田清一氏。トークセッションでは文化庁長官の近藤誠一氏、指揮者・兵庫県立芸術文化センター芸術監督の佐渡裕氏、文化庁関西元気文化圏推進・連携支援室長の天野文雄氏の各氏が鷺田氏が加わり、「文化とは何か」「文化にしかできないことはどのようなことか」といった根本的な問題について意見が交わされた。

その後の祝賀会では、関西元気文化圏設立10周年の記念特別賞を受賞した佐渡裕氏がスピーチに立ち、「（関



佐渡裕氏  
（祝賀会にて）



平成24年度 関西元気文化圏賞受賞者、近藤長官（前列中央）、主催者

西元気文化圏を提唱した）故河合隼雄文化庁長官から大きな宿題を与えられた気がする。大阪は関西の元気のシンボル。私は音楽家としてそれを盛り立てていきたい」と語った。各賞の受賞者は次の通り（敬称略）。

#### ◆大賞

吉田沙保里

（レスリング選手／五輪3連覇含め世界大会13連覇、三重県出身）

#### ◆ニューパワー賞

Peach Aviation株式会社

（関西国際空港を拠点とする日本初の格安航空会社）

里見香奈

（女流棋士／史上最年少で女流4冠・クイーン倉敷藤花達成、日本将棋連盟関西本部所属）

正木健人

（柔道家／ロンドンパラリンピック金メダリスト、兵庫県出身）

#### ◆10周年記念特別賞

佐渡 裕

（指揮者・兵庫県立芸術文化センター芸術監督／京都府出身）



## 曾根崎心中の「お初」も参加

### 堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2013年2月1日（堂島薬師堂、曾根崎新地一帯）

**堂**島・北新地の早春の風物詩「堂島薬師堂節分お水汲み祭り（主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会）」が、今年10回目を迎え、塩川正十郎氏（代表発起人・元財務大臣）、安藤忠雄氏（発起人・建築家）、大林剛郎氏（関西経済同友会代表幹事）、熊谷信昭（関西・大阪21世紀協会会長）らが列席、約2万人の来場者で賑わった。

今回は、奈良薬師寺の山田法胤管主による法要のあと、薬師寺僧侶が日本の音楽の原点といわれる「声明（しょうみょう）」を奉納。恒例の北新地芸妓衆の奉納舞や「お化け（仮装）」、龍の巡行に加え、文楽人形遣いの桐竹勘十郎さ



堂島薬師堂で香水を受ける  
塩川正十郎氏



桐竹勘十郎さんと「お初」

んが「曾根崎心中」の「お初」の人形を遣って参加し、香水（こうずい）注ぎを行ったあと、北新地本通りを練り歩いた。